

ARで新しい世界

あっと驚く世界への入り口

みなさんは「AR」ってご存知ですか？AR(Augmented Reality)は、日本語に訳すと拡張現実というもので、目に見えないものをコンピュータを使って、現実と重ね合わせて見えるようにすることと言えるでしょう。スマートフォンのアプリで、カメラ越しにいろんなタグ(吹き出し)がでてきて情報を共有できる「セカイカメラ」などがその最たるものでしょう。今回は、最近よく耳にするこのARをご紹介します。

夢の世界が目前に出現！

■ F1レーサーに挑戦！

レーシングスーツを身にまとい、ヘルメットをかぶると、**目の前にレーシングカーが現れた。**コックピットに腰を下ろし、エンジンをかけると**轟音と共に身体に振動が伝わる。**シグナルが青に変わり、アクセルを目いっぱい踏む。あっと言う間に目の前にはコーナーが飛び込んできた。シフトレバーを操りコーナーをクリアした私はフル加速。流石に加速感

は半端じゃない。**全身がシートに押さえつけられている。**レースを終えた私は**ガソリンの匂いのするピット**に戻りヘルメットを取った。

私の前にはもうレーシングカーも観客もいなかった。「よし、次はF1だ」



■ ナビに死角なし！

「向こうのビルの8階じゃないのか？」「このビルの7階から向こうの8階に連絡通路があるみたいです」後輩は私の前をスタスタ歩いていく。無事に新規の顧客との商談を終えた私たちは手応えを感じながらビルを後にした。

「あの会社に行ったことあるの？」「初めてですよ」後輩はかけていたメガネに手をかけながら答えた。

「会社の名前が分かれば、**目の前に矢印が出てくるから、迷いませんよ。屋内でも誤差はない、高さも分かるから、ビルの中でも正確に案内しますよ。会社の情報も表示**できますし、さっき、ビルの入口で他の会社の名前をチェックしましたから、帰ったらターゲットになりそうな会社をピックアップしておきますね」後輩はメガネに付いた小さなレンズを指差しながら言った。「カメラ付きなのか…」



■ 雨の日に海水浴？

「今日は海水浴に行くぞ！」「パパ、外は雨だよ」私の言葉に、不思議そうに子供たちが言った。「いいから**コレに着替えて**隣の部屋に行ってください」しばらくすると隣の部屋から子供たちの歓声がした。部屋を覗くと子供たちが布団の上ではしゃいでいる。

スーツもゴーグルも着けていない私には解からないけど、子供たちには太陽の陽射し、海の匂い、暑い砂浜と冷たい海水が感じられるのだろう。「パパ、いくら泳いでも前に進まないよ」壁際で息子が言った。「4畳半用は二人には小さ過ぎたかな。今度は8畳用を買ってくるか」



このような事は、AR技術を使った発展系で、将来実現するかもしれない事ばかりです。「目に見える」だけでなく、暑さや寒さ、肌触りや匂いまでもが感じられるようになるかも知れません。体感スーツや小さなメガネを装着するだけで、目の前に夢の世界が現れるのです。もしかすると、リストバンドと専用コンタクトレンズを装着するだけになるかも…。どこまでが現実で、どこからが仮想なのか、区別がつかないような世界になりそうです。

ARとは？

ARとは、現実には見えないものを、カメラなどを通して見ることで、いろんな情報を重ね合わせる技術です。スマートフォンのアプリ「セカイカメラ」を例にご説明すると、街角でアプリを起動して周りをみると、その場所に登録されている情報が画面に重ね合わされて表示されます。情報は自分でも投稿できます。レストランの玄関で「パスタが絶品！」と投稿すれば、他の人にもその情報が表示されます。

現実の世界をコンピュータの技術を使って「拡張」するこのARは、位置情報(GPS)と融合することで、ますます進化が期待されています。



セカイカメラ

現在のARはスマホやタブレット、PCのWebカメラなど、カメラを通して現実を拡張していますが、**近い未来には小さなメガネをかけるだけで拡張された世界が広がるようになります。**既にGoogleでは、ARを使ったメガネの開発が進められ、そのメガネを使えばメールや時刻、その場所の気温、地下鉄の駅の場所までのルートなどが、目前に映し出されるようになります。



Google Glass

芽生えたばかりのARの種

夢のようなARですが、今でもさまざまなサービスが行われています。夢の世界にはまだちょっと遠いですが、便利で楽しいものがありますよ。

■ ARでカタログ

家具のIKEAでは、カタログについているバーコードを部屋に置き、カメラを通して見ると、実際にその家具がそこにあるかのように見えます。これを使えば自分の部屋に合うデザインや色、サイズ感を買う前にチェックできるので非常に便利です。



■ メガネや洋服の試着からヘアスタイルのチェックまで

iPadのカメラで顔を写しながら、メガネ・サングラスをかけているように見せるARアプリや、ヘアスタイルを自由に変更できるもの、選んだ服を鏡で合わせるように試着できるARのシステムもあります。ネット通販では、家にいながら物を確認し、実際に試着したような感覚で購入するといったスタイルになっていきます。今まで実際に見ないと買わなかった人達でも、安心して購入できるようになっていくことでしょう。



■ 近未来カーナビ

実際の道路の画像にナビゲーションの矢印や距離などを表示するARを使ったカーナビもあります。今まで分かりにくかった場所も、実際の建物の外観や特徴などがわかりますので、非常に直感的に使用することができます。



「拡張現実」と難しく考えず「現実にはちょっとした味付けやスパイスを加えて楽しく便利に過ごす第一歩。」と考えてはどうでしょうか。まずはスマートフォンのARアプリなどを試してみ、驚きの世界に触れてみてはいかがでしょうか。

開発室から

録画したドラマの頭が数秒切れていました。レコーダーの時計を見ると数秒遅れていましたが、最近のレコーダーは時刻合わせの設定がありません。自動で時刻合わせをするからなのでしょうが、便利なのか不便なのか？数日後に時計は直りました。